

国産野菜シェア奪還プロジェクト推進協議会の 設置及び進め方について



協議会への会員登録はこちら

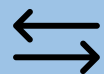
令和6年4月

農林水産省



(国産野菜シェア奪還プロジェクト推進協議会事務局)

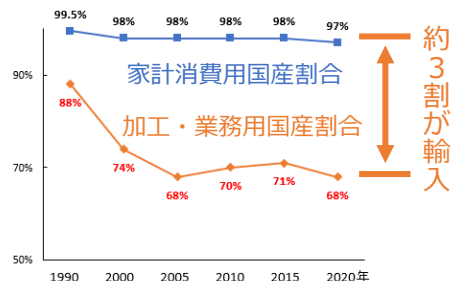
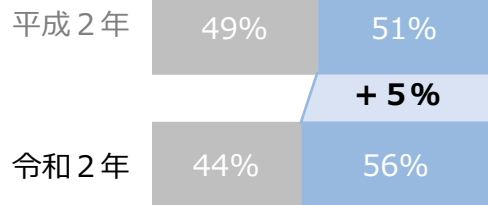
現状と課題



加工・業務用野菜へのシフト

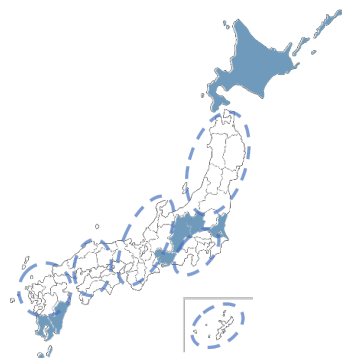
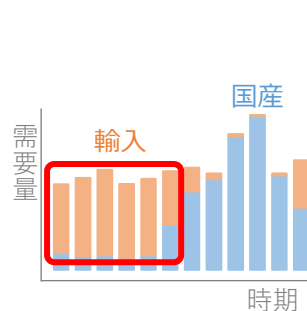
増加する加工・業務用需要へ対応するため、サプライチェーン全体が変わる必要

家計消費用 加工・業務用



周年安定供給が不十分

国産が品薄になる時期に外国産が多く輸入されているため、周年安定供給体制の構築が必要



対応方向



生産・流通方式を加工・業務用に最適化

(更なるコスト削減、付加価値化)



産地の多様化、冷凍機能強化により周年安定供給体制を実現

協議会の主な活動内容

1



課題の洗い出しと解決策の検討

品目ごとに実需者のニーズ、産地の状況などを分析し、取り組むべき方向性を取りまとめ国産野菜の増産、活用を推進します。

2



生産から販売までの各プレイヤーが連携した取組の推進、サポート

アンケート調査や関係者からのヒアリング等を進め、効果的なマッチング機会を創出し、サプライチェーンの関係者による新たな連携づくりをサポートします。

3



先進事例の横展開と関連情報の共有

農林水産省HPなどにおいて、先進事例や関連施策情報のほか、会員から提供される情報をタイムリーに発信します。

4



国産野菜の需要喚起

8 3 1 の日シンポジウムや「野菜を食べようプロジェクト」と連携するなどにより、国産野菜の需要喚起を推進します。

5



その他、協議会メンバーからの提案による趣旨に沿う活動

協議会の活動を推進していく中でメンバーから出された提案について必要に応じ取り組みを推進します。

アンケート結果から

協議会員の声



- ・生産者（実需者）と **もっと連携したい**。
- ・機械導入、施設整備等への **支援を充実** してほしい。 など

協議会員のニーズが高い品目

もっと生産したい（生産者）



1. たまねぎ
2. ブロッコリー
3. キャベツ
4. だいこん
5. ほうれんそう

もっと欲しい（実需者）



1. たまねぎ
2. ブロッコリー
3. キャベツ
4. ほうれんそう
5. かぼちゃ

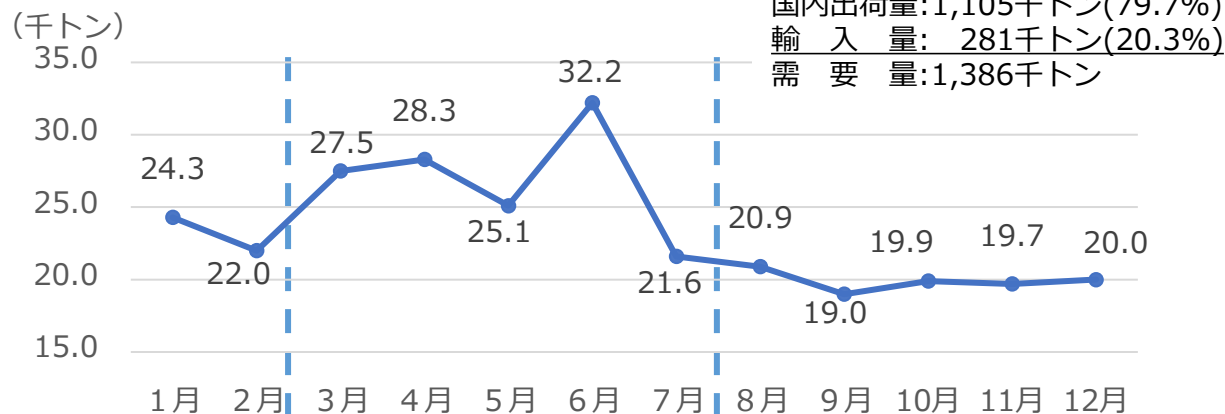
個別の品目 について **ニーズの聞き取り・分析** を行い
サプライチェーンの **案件形成をスタート** ！

たまねぎの月別需要量

Point

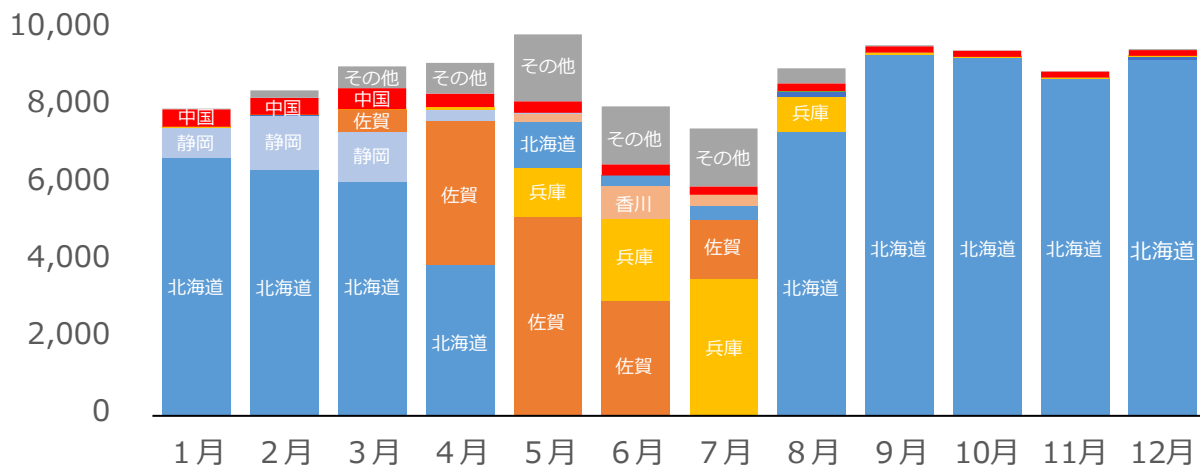
月別輸入量は3月から6月に増加する傾向がある。これは主要産地である北海道の出荷量が減少する4月から7月の需要に対応するためと考えられる。

月別輸入量の推移（令和4年）



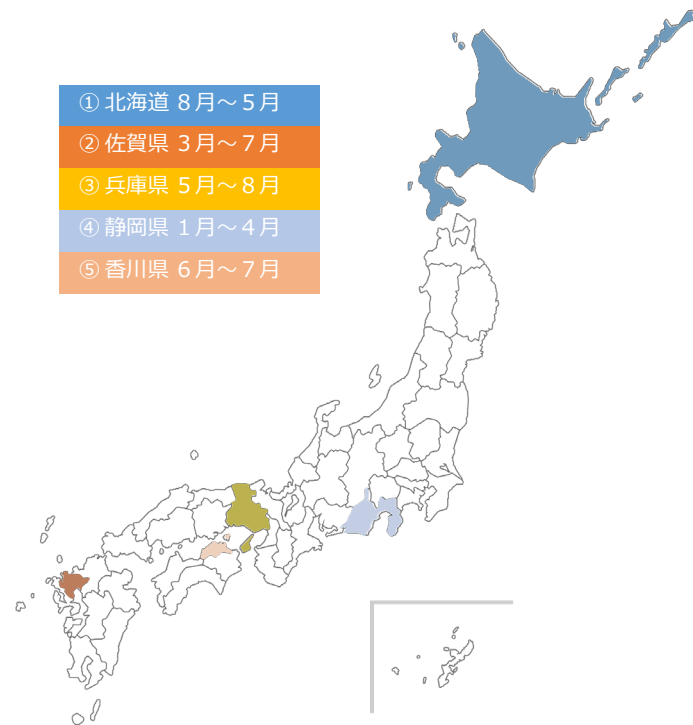
出典：財務省「貿易統計」（R4）、農林水産省「野菜生産出荷統計」（R4）

月別市場入荷量（令和4年：東京都中央卸売市場）



主な国内産地の入荷時期 （令和4年：東京都中央卸売市場）

- ① 北海道 8月～5月
- ② 佐賀県 3月～7月
- ③ 兵庫県 5月～8月
- ④ 静岡県 1月～4月
- ⑤ 香川県 6月～7月



出典：独立行政法人農畜産業振興機構「野菜マップ」

案件形成に向けたスケジュール（現時点における事務局想定）

令和6年
3月

- 協議会の設置、設立シンポジウムの開催についてHPで公表・会員募集開始
- アンケート調査（産地・実需双方のニーズ、問題意識の把握等）

4月

- 設立シンポジウムの開催（4/26）

5月

- 品目別に実需者のニーズをより詳しく収集

➡ 整理・分析（ニーズの高い品目について、時期・量・品質など）

※まずは、ターゲットとなる2～3品目について先行して取り組むことを想定

6月以降

- 案件形成に向け、各地において説明会や話し合いの場づくり（随時）

➡ 形成された案件を報告

夏から秋にかけて
具体的な案件を形成していく